

2025.9

若い世代・子育て世代の消費行動に関する アンケート結果

喜多方市 企画調整課

目次

I アンケートの実施状況.....	- 3 -
1 目的	- 3 -
2 対象、抽出数と回答数.....	- 3 -
3 回答者の属性.....	- 3 -
4 アンケートにおける買い物の品目、店舗等の区分.....	- 4 -
II アンケートの回答内容	- 5 -
1 日頃の買い物について	- 5 -
2 被服や電化製品などの買い物について	- 7 -
3 外食について	- 10 -
III まとめ.....	- 15 -
<参 考>	- 17 -

I アンケートの実施状況

1 目的

旧福島県立喜多方東高等学校の跡地を活用して新しいまちの魅力を創ることにより、若年層の地元定着につなげるとともに、誰もが暮らしやすく、安全・安心で活力あるまちづくりを進めるため、若い世代や子育て世代の消費行動を調査し、旧福島県立喜多方東高等学校跡地利活用に係る基本計画策定の資料とすることを目的として実施した。

2 対象、抽出数と回答数

アンケートは、住民基本台帳に登録されている18歳から34歳まで（年齢基準日：令和7年3月31日）の日本人（5,255人）を対象とし、行政区、性別、年齢、人口割合などにより1,200人を無作為に抽出して、アンケートの協力依頼を令和7年7月に送付、インターネットによる回答のみとした。

アンケートの回答数は232件で、回答率は19.3%であった。

回答者の居住地を地区別にみると、抽出数の多かった「喜多方地区」から163人の回答があり、抽出数の少なかった「高郷地区」は1人のみの回答にとどまった。回答率が最も高かったのは熱塩加納地区であった。（表1）。

【表1】抽出数と回答数の内訳

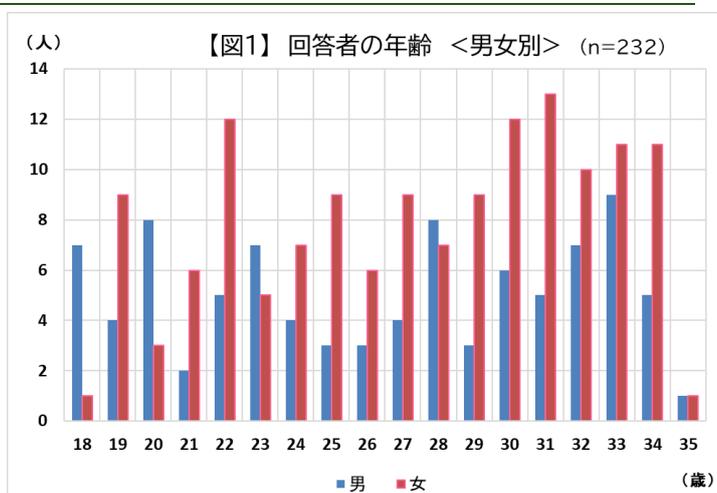
地区	喜多方		熱塩加納		塩川		山都		高郷		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
18～34歳人口	3,542		201		1,198		193		121		5,255		
	1,874	1,668	100	101	630	568	103	90	60	61	2,767	2,488	
抽出数	839		36		275		34		16		1,200		
	内訳	424	415	15	21	138	137	15	19	8	8	600	600
	割合	69.9%		3.0%		22.9%		2.8%		1.3%		22.8%	
回答数	163		12		51		5		1		232		
	内訳	63	100	5	7	19	32	3	2	1	0	91	141
	回答率	19.4%		33.3%		18.5%		14.7%		6.3%		19.3%	

3 回答者の属性

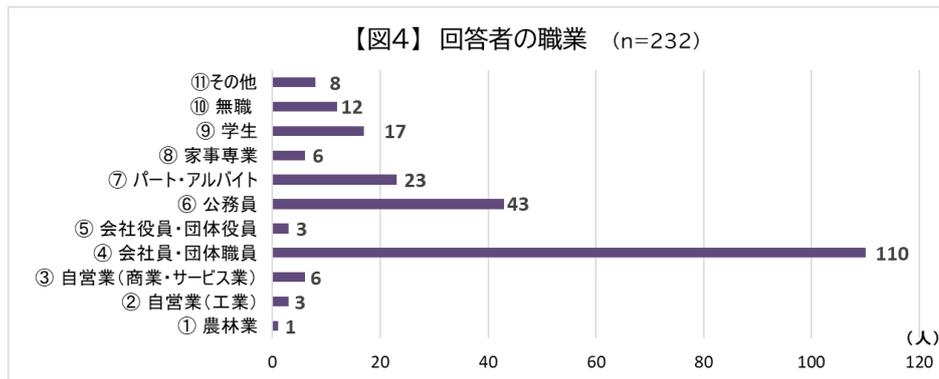
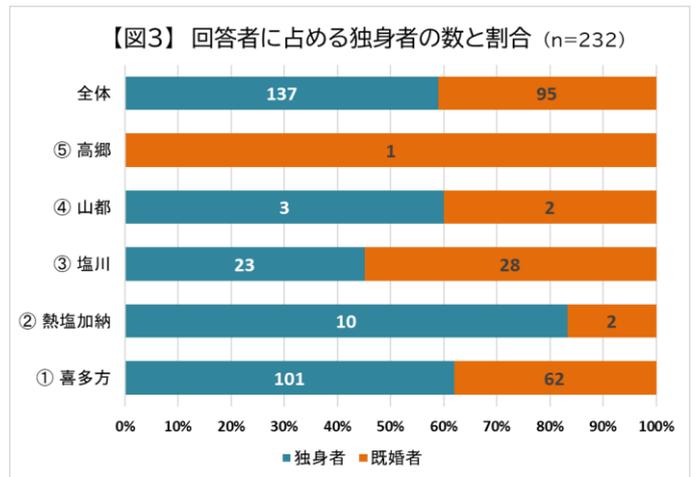
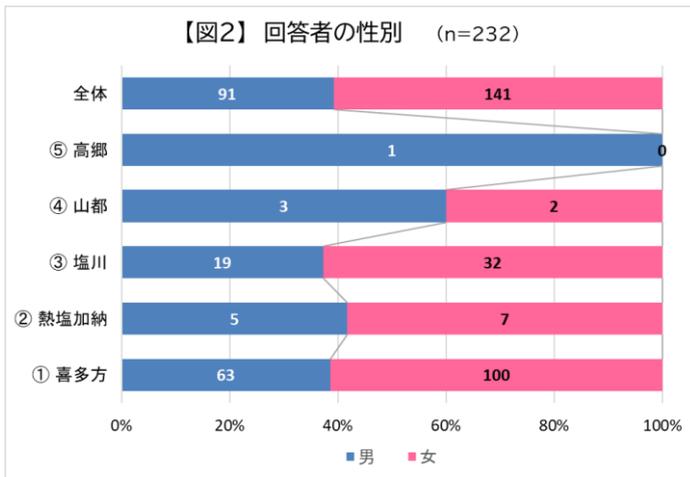
回答者の年齢は、30代の女性が多かった。全体でも女性の回答が約61%を占めた。（図1・図2）

回答者に占める独身者（結婚歴のない未婚者）は、全体の59%となっている。（図3）

回答者の職業は、「会社員・団体職員」が110人で最も多く、次いで「公務員」の43人となっている。また、「学生」の回答は17人であった。（図4）



※図中の「n」は回答件数（以下同じ）



4 アンケートにおける買い物の品目、店舗等の区分

このアンケートは、買い物の品目や店舗等の区分を次のとおりとして回答を依頼した。

このアンケートで「日頃の買い物」とは、次のものを指します。

- ア 食料品** 米、パン、麺など穀類、鮮魚、干物など魚介類、生肉、ベーコンなど肉類、牛乳、卵、ヨーグルトなど乳卵類、油脂、調味料など
- イ 飲料品** 日本酒、ビール、焼酎、ワイン、ジュース、緑茶、紅茶、コーヒーなど
- ウ 調理品** 弁当、おにぎり、惣菜など
- エ 青果** 野菜、果物など
- オ 日用品** ティッシュペーパー、トイレtpペーパー、ラップ、ポリ袋、洗剤、調理用品、医薬品、マスク、紙おむつ、下着、靴下など

このアンケートで「被服や電化製品など」とは、次のものを指します。

- ア 被服等** スーツ、ジャケット、スカート、シャツ、セーター、ジーンズ、革靴、運動靴、サンダル、かばんなど
- イ 電化製品** テレビ、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、掃除機、エアコン、パソコン、ゲーム機器、携帯電話など
- ウ 家具寝具** テーブル、椅子、ソファ、カーテン、ベッド、布団、毛布、シーツなど
- エ 趣味嗜好品** スポーツ、音楽、写真、絵画、釣り等の用具・用品、書籍、雑貨、小物など
- オ 宝飾品等** 指輪、ネックレス、アクセサリ、時計など

このアンケートで「外食」の飲食店とは、次のものを指します。

- ア 麺店** ラーメン、そば、うどんなどの麺類を中心に提供する料理店
- イ 和食店** ごはんを中心に肉、魚、野菜等の各種定食、寿司などを提供する日本料理店
- ウ 洋食店** ステーキやオムライス、パスタ、サンドウィッチなどを提供する西洋料理店
- エ 中華店** 餃子、小籠包、炒飯、麻婆豆腐等、山東、四川、広東料理などを提供する中華料理店
- オ カフェ** コーヒー、紅茶等の飲料やスイーツなどを提供する軽食・喫茶店
- カ ファミリーレストラン** 比較的安価で多様な料理を提供する家族連れ向けのレストラン
- キ ファストフード店** ハンバーガーなど短時間で手軽に食べられる食品や食事を提供する店舗
- ク 居酒屋等** 酒類とともに食事を提供する居酒屋、スナック、バーなど

II アンケートの回答内容

1 日頃の買い物について

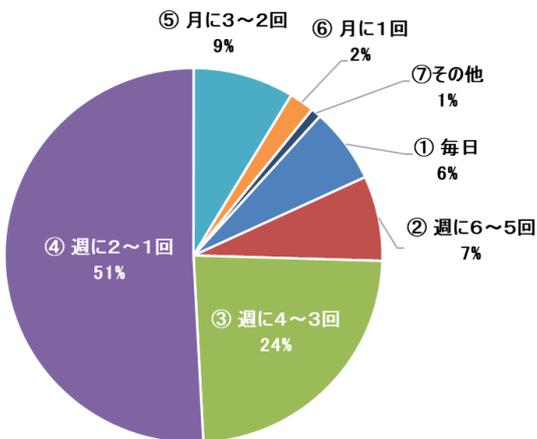
(1) 買い物の頻度など

～買い物は週2～1回が多く、世帯人数が3人以上になると頻度が増加～

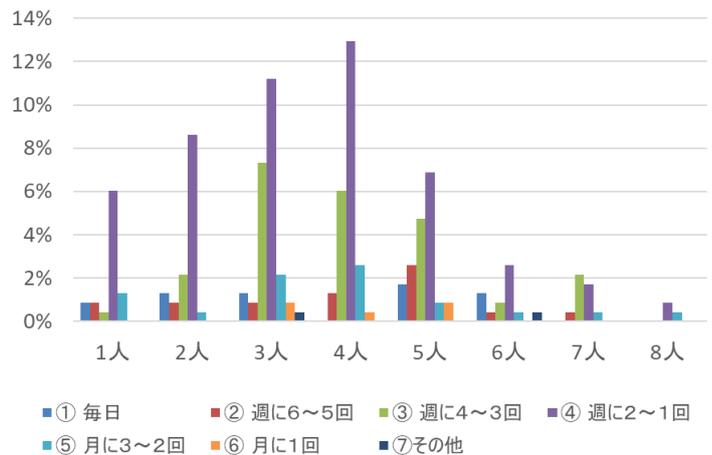
日頃の買い物の頻度は「週に2～1回」の回答が最も多く、約半数の51%を占めている。(図5)

世帯人数と買い物の頻度の関係を見ると、世帯の人数が3人以上になると「週に4～3回」も多くなり、買い物の頻度が増加していることが分かる。(図6)

【図5】日頃の買い物の頻度 (n=232)



【図6】世帯人数ごとの買い物の頻度 (n=232)



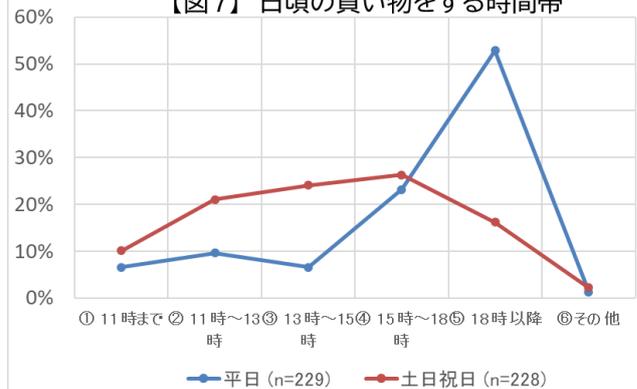
～平日は仕事帰りの18時以降にひとり、休日は日中の時間帯に家族での買い物が多～

買い物の時間帯、同伴者をたずねた質問の回答から、平日は「仕事帰り」の「18時以降」に「ひとり」で買い物することが多く、土日祝日の休日は買い物する時間帯の回答が「11時～13時」、「13時～15時」、「15時～18時」に分散しており、日中に「家族」と買い物をしていることが分かる。

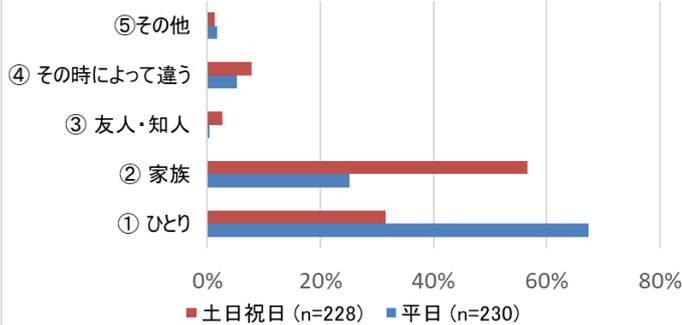
また、買い物に行く機会では、休日は「その買い物だけを目的に行く」が最も多いことから、買い物がレジャーの一つになっていると思われる。

(図7・図8・図9)

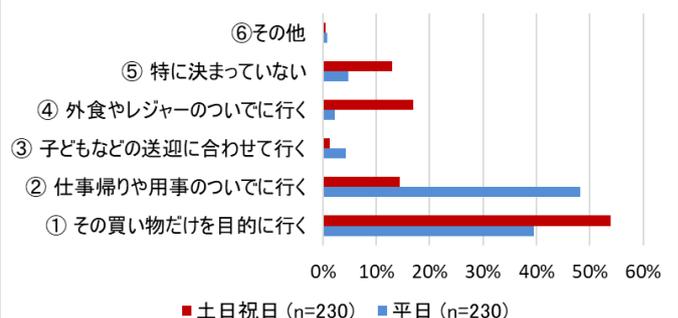
【図7】日頃の買い物をする時間帯



【図8】日頃の買い物の同伴者



【図9】日頃の買い物に行く機会

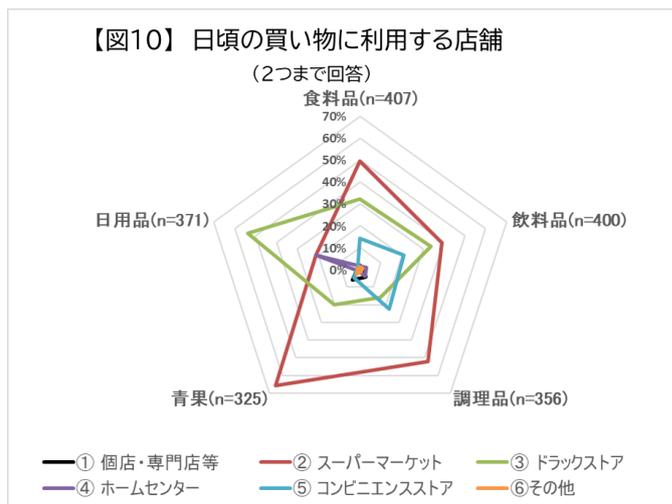


～日用品はドラッグストア、食料品などはスーパーマーケットの利用が多い～

利用する店舗（2つまでの選択式複数回答）の質問では、「日用品」は「ドラッグストア」の回答が多く、「食料品」、「飲料品」、「調理品」、「青果」は「スーパーマーケット」が多かった。

「日用品」は「ホームセンター」、「調理品」等は「コンビニエンスストア」の利用も目立つ。

「個店・専門店」を利用するという回答はわずかであった。（図10）

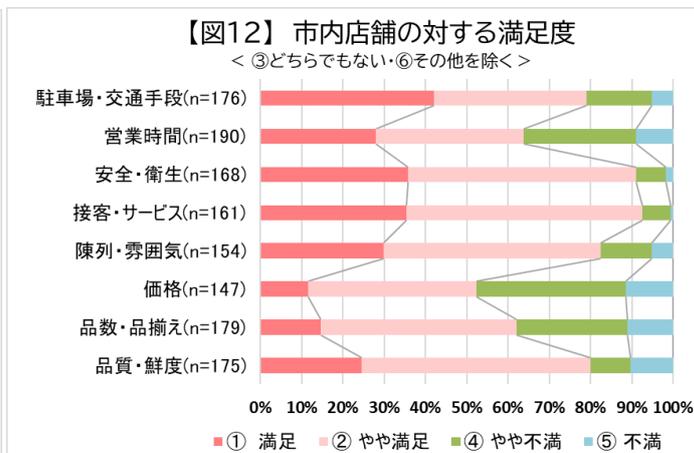
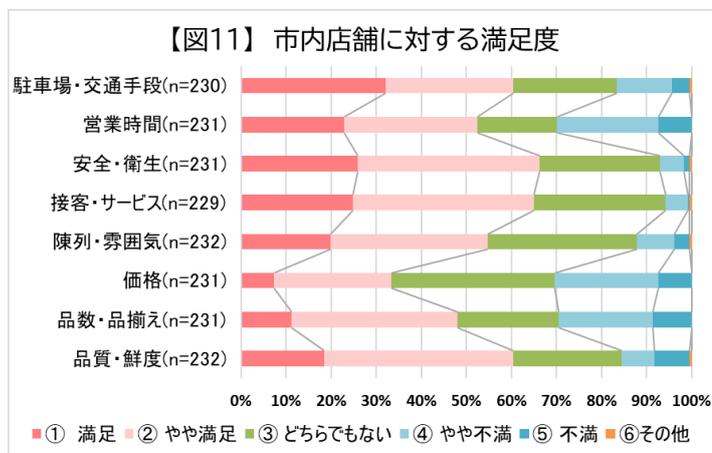


(2) 喜多方市内の店舗に対する満足度

～多くの項目で評価が高いが、「価格」「品揃え」「営業時間」に不満が多い～

日頃の買い物をする市内店舗について、どう感じているかをたずねたところ、全体の回答状況は図11のとおりであるが、「どちらでもない」と「その他」を除いた図12をみると、「品質・鮮度」、「陳列・雰囲気」、「接客・サービス」、「安全・衛生」は「満足」+「やや満足」が80%以上であり、評価が高い結果となった。

一方、「価格」は「不満」+「やや不満」が半数近くに達しているとともに、「品数・品揃え」、「営業時間」でも不満を感じている回答が多くあった。



～不満の理由は、「品揃えが少ない」「閉店時間が早い」物価高騰による「価格上昇」～

不満の理由（自由記述回答）について94人から回答があったが、ほとんどの回答者が複数の項目について不満の理由を記述している。

回答が最も多かったのは品数・品揃えで、「同じようなものばかり売っている」、「欲しいものが売っていない」、「市外へ行かないと購入できない」などの内容であった。品揃えのほか、店舗の種類や数の少なさを不満の理由とする回答もあった。

次いで、営業時間に対するもので、閉店時間が早いことに対する不満が多く、営業時間の延長、22時以降の深夜営業、開店時間の前倒しを望む記述があった。

価格に対する不満は、価格の高さが最も多くなっており、物価高騰の影響を指摘する回答が目立った。

また、駐車場・交通手段についての記述も多く、駐車場の狭さや利用しにくさ、駐車マナーの悪さなどを不満の理由としてあげている。

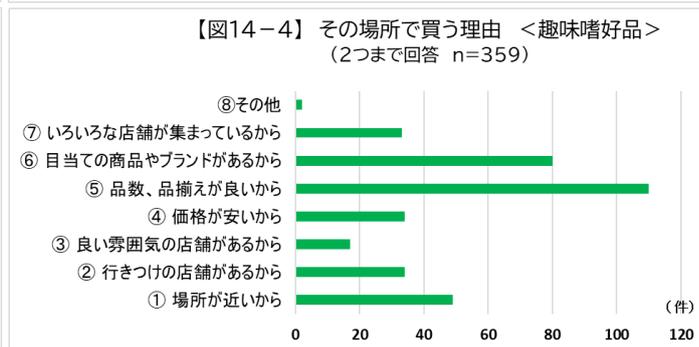
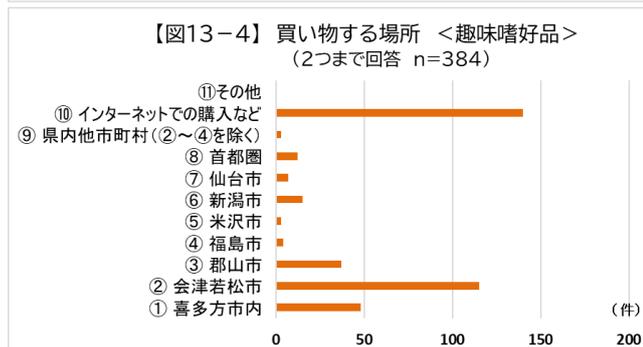
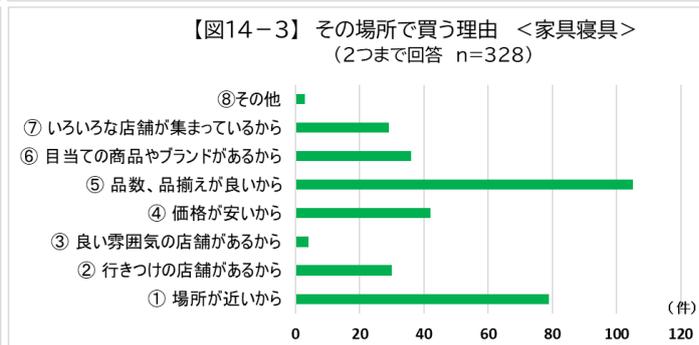
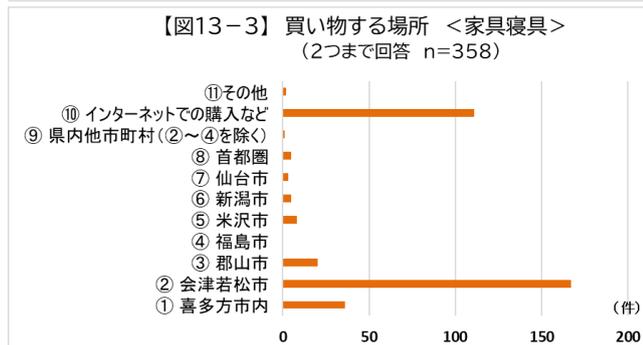
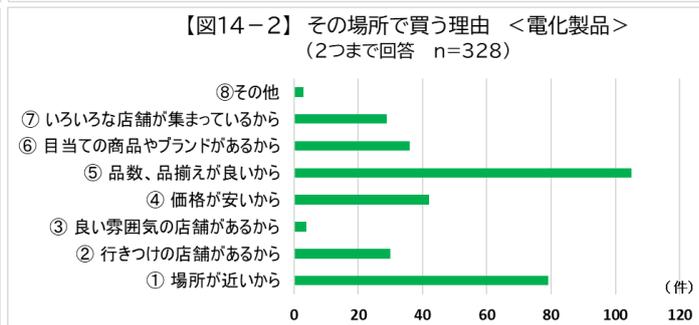
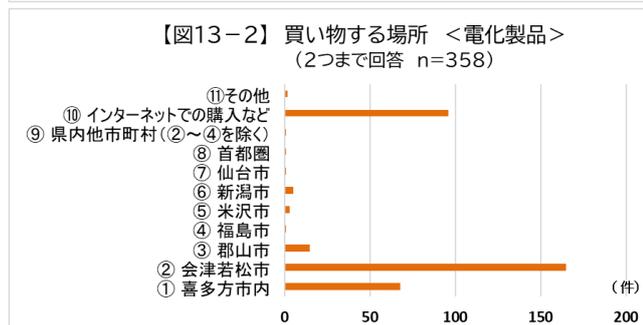
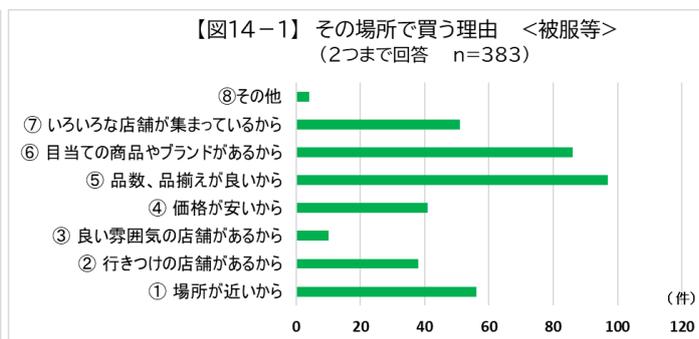
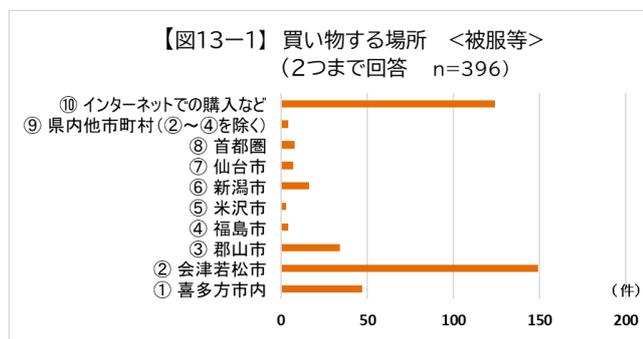
2 被服や電化製品などの買い物について

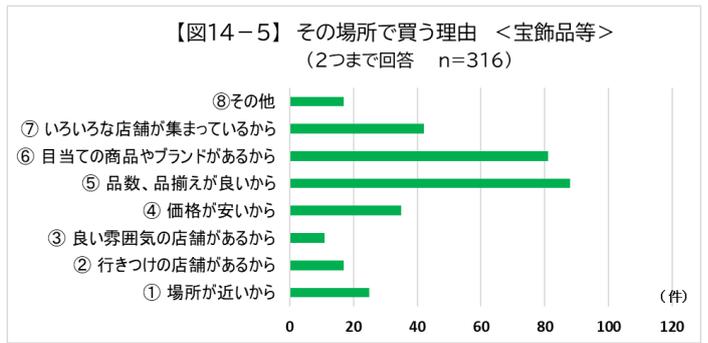
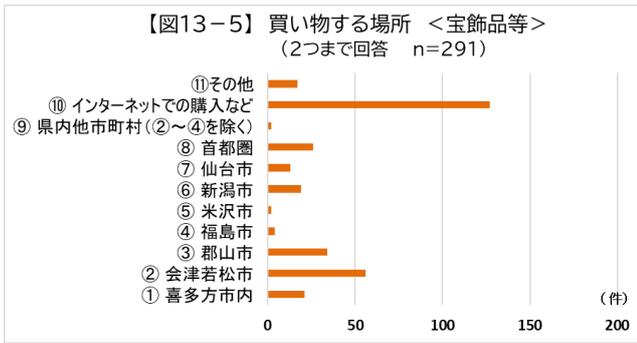
(1) 買い物する場所とその理由

～会津若松市での購入が多いが、インターネットで購入も多くEC(電子商取引)が普及～

被服や電化製品などを購入する場所についてたずねたところ（2つまでの選択式複数回答）、「被服等」、「電化製品」、「家具・寝具」は「会津若松市」が最も多く、次いで「インターネットでの購入など」となった。「趣味嗜好品」と「宝飾品等」は「インターネットでの購入など」が最も多くなっており、好みのデザインや機能、ブランドなどが実店舗より商品の選択肢が多いことや目当ての商品を探しやすいことなどによるものと思われる。（図13-1～図13-5）

その場所で買う理由としては、「品数・品揃えが良いから」や「目当ての商品やブランドがあるから」が多い。「電化製品」と「家具・寝具」は「場所の近さ」も多いが、商品の機能や性能、大きさなど現物を確認した上で購入することが多いためと思われる。（図14-1～図14-5・図15）



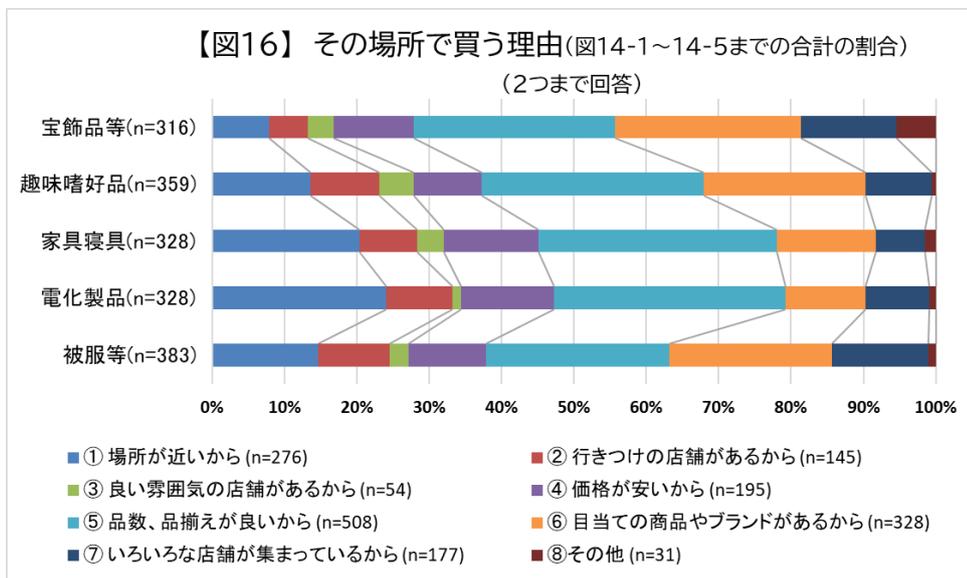
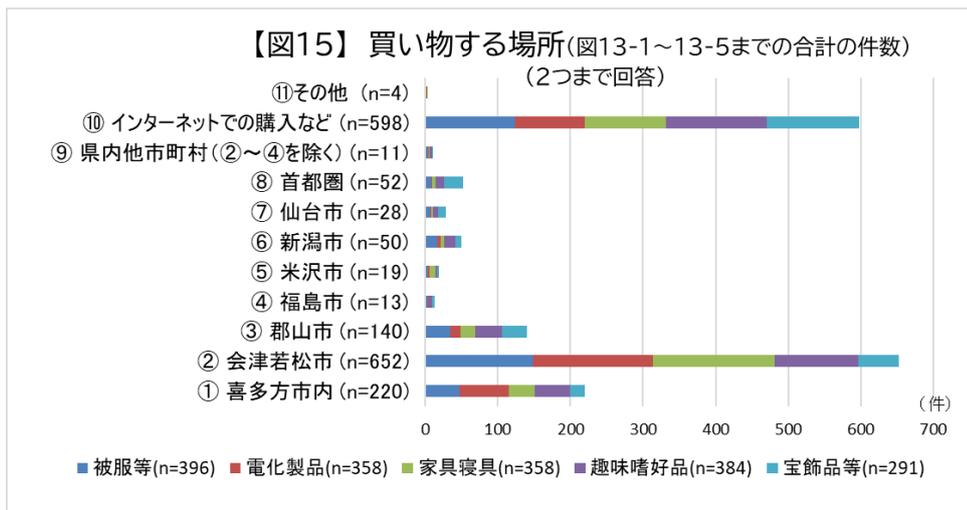


～品揃えのよさを求めて、会津若松市やインターネットでの購入に流出～

買い物をする場所について、図13-1～図13-5までを合計してみると、「会津若松市」が652件で最も多かった。次いで「インターネットでの購入」が598件と多く、「喜多方市内」は220件であった。

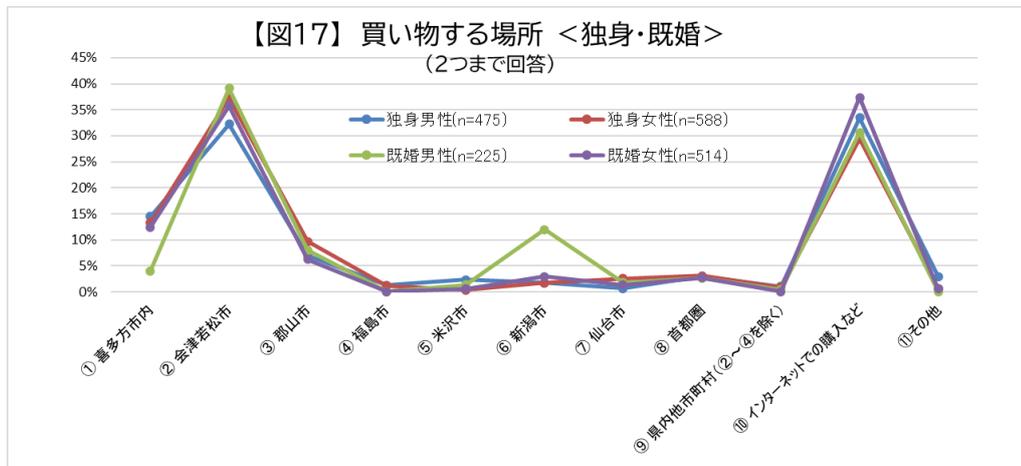
(図15)

その場所で買う理由について、図14-1～図14-5までを合計してみると、「品数、品揃えが良いから」がどの買い物の種別でも最も多く(図16)、Ⅱ・1の日頃の買い物において、喜多方市内の店舗に対し、品揃えが少ないことを不満に感じている回答が多い結果であったが、品揃えの良さを求めて、会津若松市やインターネットでの購入に流れていることが見て取れる。



～独身者と既婚者で買い物する場所に大きな違いなし～

独身者、既婚者それぞれの男女について、購入する場所を比較したところ、既婚男性は「新潟市」で買い物するという回答の多さ（約12%）が目立つものの、他は独身者と既婚者の買い物する場所に大きな違いは見られなかった。（図17）



(2) 同じ店舗内や敷地内、又はすぐ近くにあればよいと思うもの

～カフェ、ファストフードなど軽食店が回答の3分の1を占め、最も多い～

施設・店舗を複合化する場合の参考とするため、同じ店舗内や敷地内に一緒にあればよい、又はすぐ近くにあればよいと思うものについてたずねたところ（自由記述回答）、135人から回答（複数の記入多数あり）があった。

具体的な店舗名を記入した回答も多数あったが、それらも含めて分類してみると、カフェ、ファストフード店など軽食系が最も多く回答の3分の1を占めた。次いで、ファミリーレストランなどの飲食店が多く、ドラッグストア、書店、スーパーマーケット、100円ショップ、衣料品店、コインランドリーの順となっている（表2）。

ドラッグストアやスーパーマーケット、100円ショップなど日常生活に必要な用品を販売する店舗と、カフェやファミリーレストランなどの飲食系の店舗の組み合わせを望んでいるものと読み取れる。

【表2】 同じ店舗内や敷地内、又はすぐ近くにあればよいと思うもの

分類	件数	分類	件数
カフェ、ファストフード店、軽食	82	学習・休憩・コワーキングスペース	5
飲食店	22	ATM	3
ドラッグストア	19	コンビニエンスストア	3
書店	14	ジム	2
スーパーマーケット	13	ガソリンスタンド	2
100円ショップ	11	ネットカフェ	2
衣料品店	11	ゲームセンター	2
コインランドリー	9	惣菜店	2
大型雑貨店・ディスカウントストア	8	理美容店	1
ショッピングモール・百貨店	8	ドッグラン	1
子どもの遊び場	8	洗車場	1
映画館	6	小児科	1
子供服・子供用品	5	その他	6
ホームセンター	5	計	252

(3) 喜多方市内にあればよいと思う店舗

～衣料品店が最多。大型雑貨店、ディスカウントストア、映画館も多い～

若い世代・子育て世代が望んでいる店舗を調査するため、喜多方市内にあればよいと思う店舗についてたずねたところ（自由記述回答）、156人から回答（有効回答）があったが、その多くが店舗の種類、具体的な店舗名・ブランド名を複数記入した回答であった。

衣料品店が最も多く、次いで大型雑貨店で、ディスカウントストア、映画館も多かった。

被服や電化製品などの飲食系以外の物販店舗を想定した質問であったが、飲食系の回答も多くあり、なかでもカフェが多かった。（表3）

【表3】 喜多方市内にあればよいと思う店舗

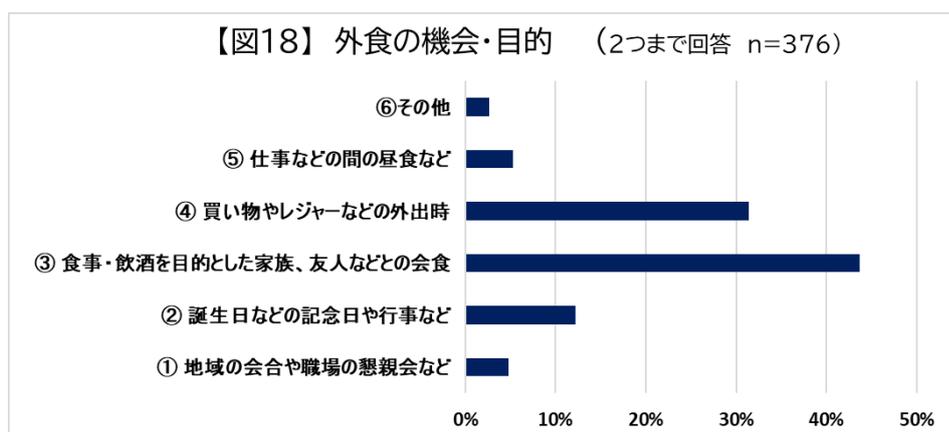
店舗の種類	件数
衣料品	107
大型雑貨店	37
ディスカウントストア	31
映画館	25
家具・インテリア店	17
書店・古書店	15
スーパーマーケット	14
カフェ	38

3 外食について

(1) 外食の機会・目的と時期

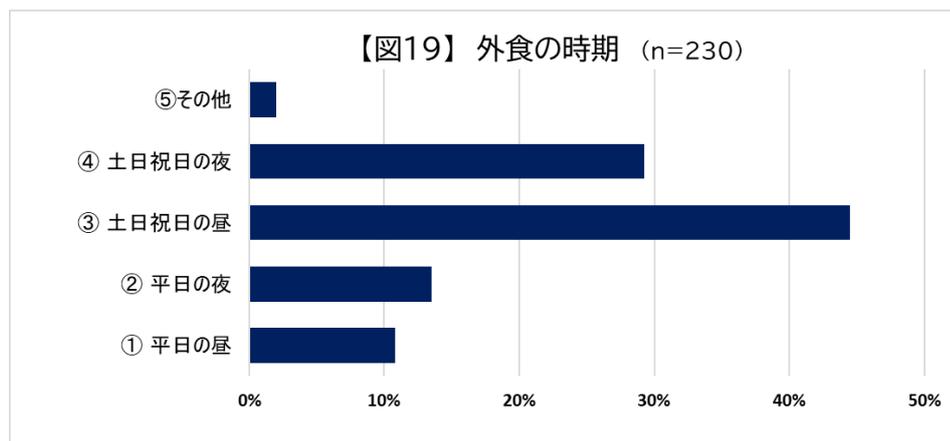
～食事・飲酒を目的とした家族・友人などとの会食が多い～

外食の機会・目的（2つまでの選択式複数回答）は、「食事・飲酒を目的とした家族、友人などとの会食」が最も多く、次いで「買い物やレジャーなどの外出時」の回答が多かった。（図18）



～土日祝日の昼が最も多い～

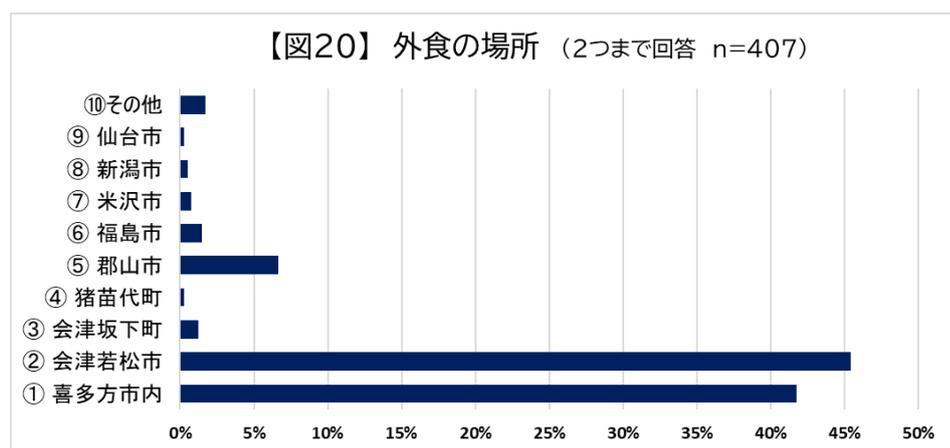
外食の時期をみると、「土日祝日の昼」が最も多い。「土日祝日の夜」と合わせると土日祝日が7割を超える。前項の「食事・飲酒を目的とした家族、友人などとの会食」が多いことから、家族等で土日祝日に外食していることが分かる。（図19）



(2) 外食の場所

～会津若松市が最多で、喜多方市内を上回る～

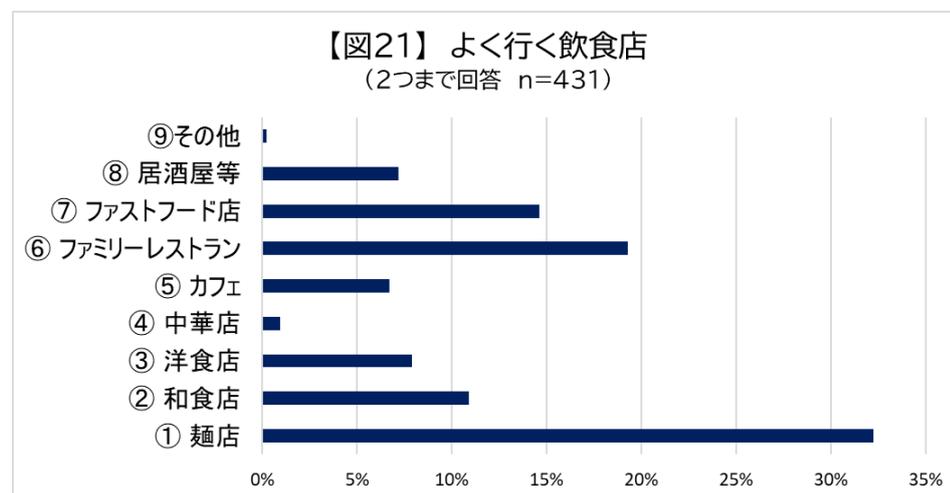
外食の場所（2つまでの選択式複数回答）は、「会津若松市」の回答が最も多く、「喜多方市内」を上回っている。会津地域内での外食が全体の約9割を占めている。会津地域以外では郡山市が多い。（図20）



(3) よく行く飲食店と店選びに重視する点

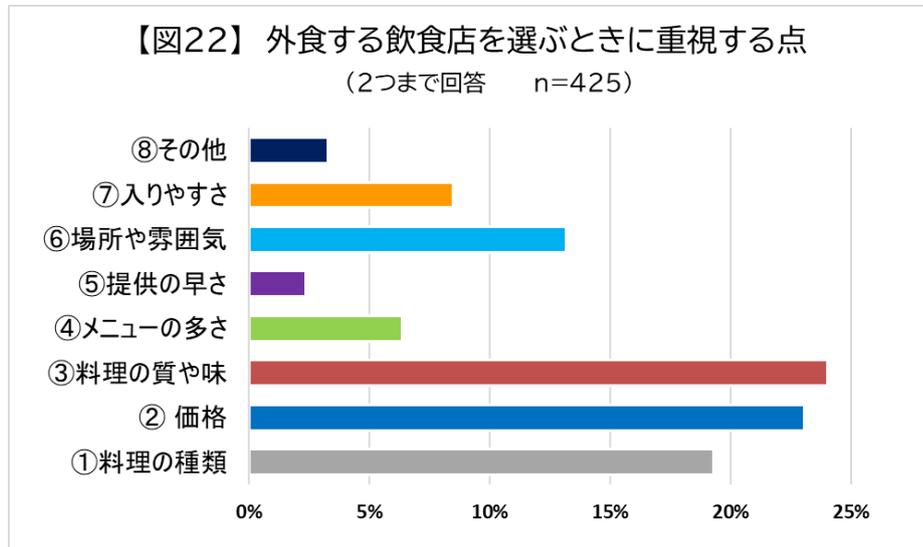
～よく行く飲食店は、麺店が最も多い～

外食のためよく行く飲食店（2つまでの選択式複数回答）は、「麺店」が最も多く、次いで「ファミリーレストラン」、「ファストフード店」の順が多い。（図21）



～料理の質や味、価格を重視して飲食店を選ぶ～

外食する飲食店を選ぶときに重視する点（2つまでの選択式複数回答）は、「料理の質や味」の回答が最も多く、次いで「価格」であった。また、麺、和食、洋食、中華など「料理の種類」を重視する回答も多かった。「その他」では「子どもが食べられるものがあること」や「子どもが居やすいか」など子ども連れでの入りやすさを重視する回答が目立った。（図22）

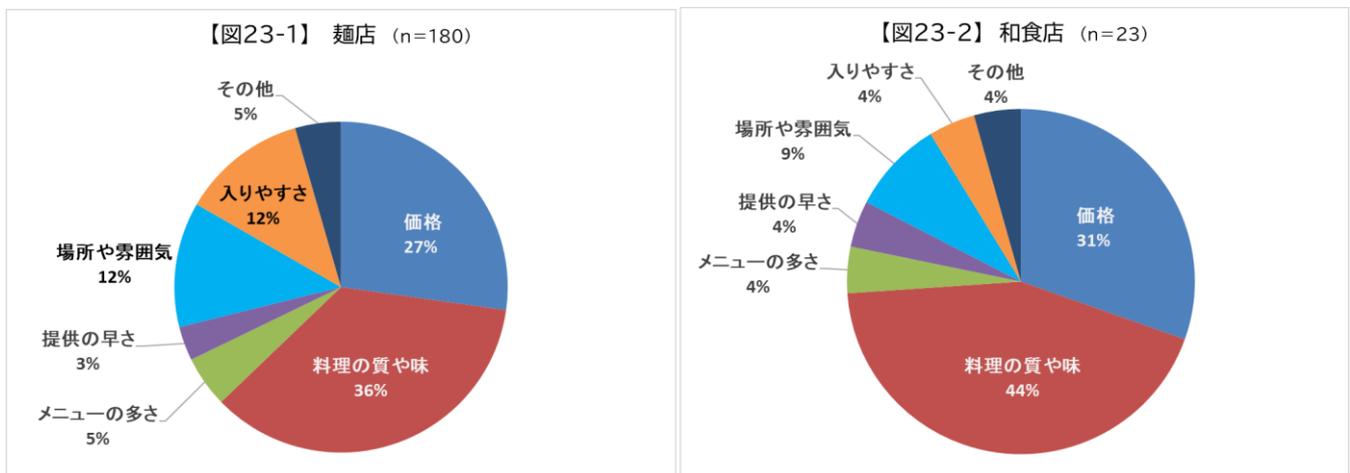


【参考】

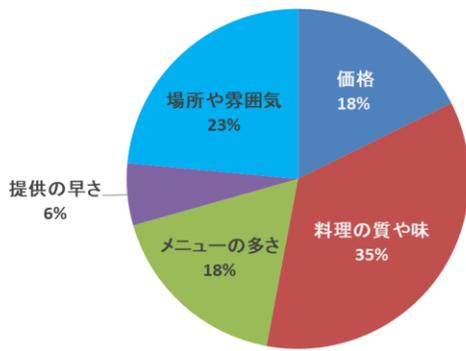
参考までに「外食のためよく行く飲食店」と「飲食店を選ぶときに重視する点」の関係について見てみると、「外食のためよく行く飲食店」に「麺店」、「和食店」、「洋食店」と回答した人が、「飲食店を選ぶときに重視する点」は「料理の質や味」を最も多く、次いで多いのが「麺店」と「和食店」は「価格」であったが、「洋食店」は「場所や雰囲気」となっている。

また、「カフェ」は「場所や雰囲気」、「ファミリーレストラン」と「ファストフード店」は「価格」が重視されている。「中華店」は回答数がごくわずか（3件）であったことから参考とし難い。「居酒屋等」も「料理の質や味」を重視する回答が多かった。（図23-1～図23-8）

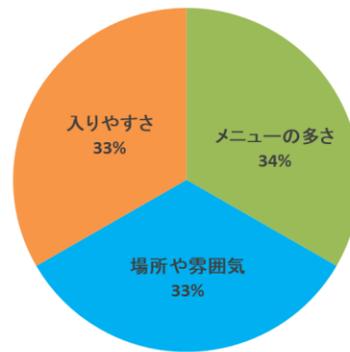
なお、「外食のためよく行く飲食店」と「飲食店を選ぶときに重視する点」は、いずれも2つまでの複数回答であることから、完全な相関関係ではないことに注意のうえ、参考とされたい。



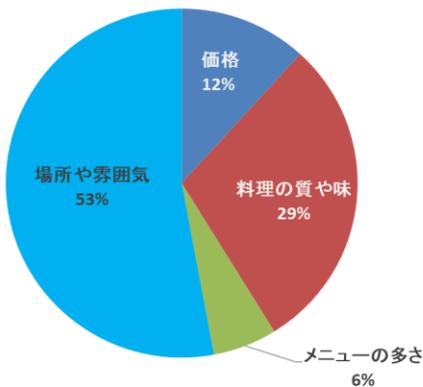
【図23-3】 洋食店 (n=17)



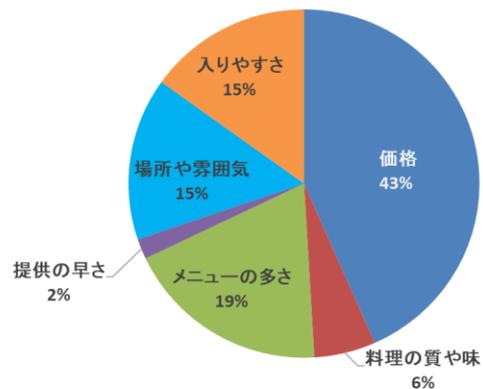
【図23-4】 中華店 (n=3)



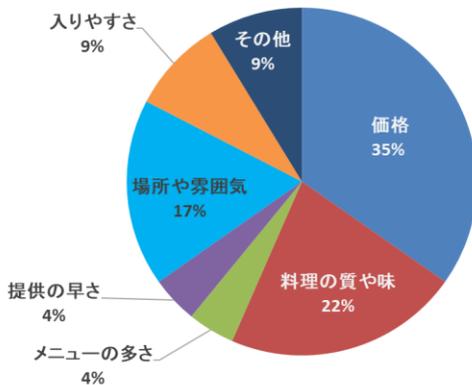
【図23-5】 カフェ (n=17)



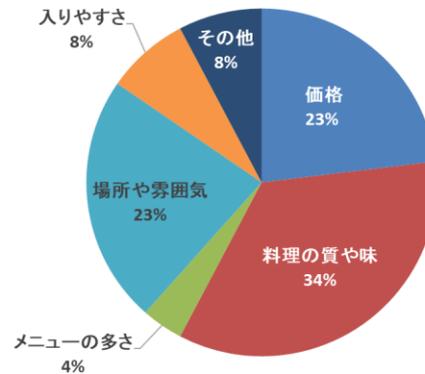
【図23-6】 ファミリーレストラン (n=53)



【図23-7】 ファストフード店 (n=23)



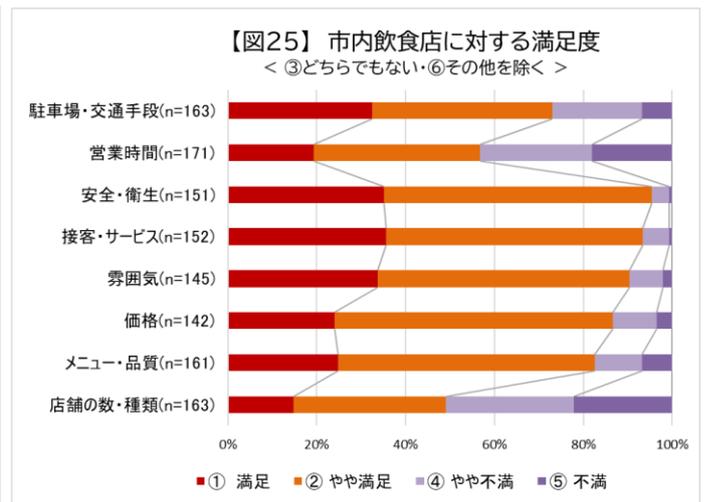
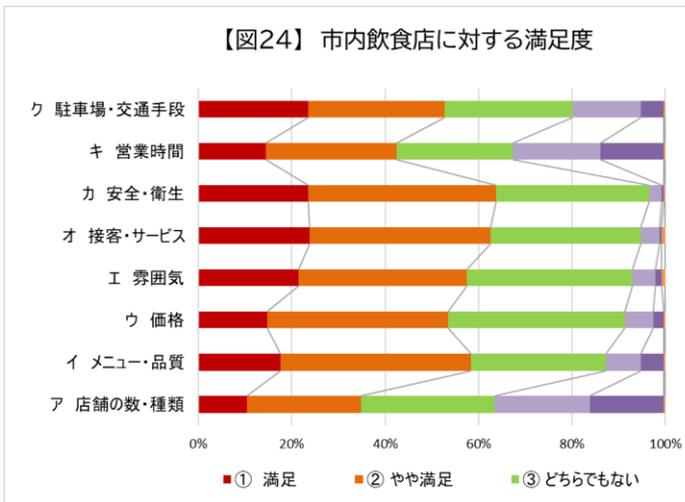
【図23-8】 居酒屋等 (n=26)



(4) 喜多方市内の飲食店に対する満足度

～多くの項目で満足度が高いが、「店舗の数・種類」で不満が多い～

市内の飲食店について、どう感じているかたずねたところ、全体の図24から「どちらでもない」と「その他」の回答を除いてみると、「メニュー・品質」、「価格」、「雰囲気」、「接客・サービス」、「安全・衛生」は「満足」+「やや満足」が80%を超えており、高い評価となっている。一方、「店舗の数・種類」は、「満足」+「やや満足」が半数弱にとどまり、「不満」+「やや不満」が最も多く、次いで「営業時間」、「駐車場・交通手段」の順に不満が多かった。(図25)



～ラーメン店が多いが、飲食店の種類の少なさが不満理由のトップ～

不満の理由（自由記述回答）について、98人から回答があった。

店舗の数・種類に関するものは、「ラーメン屋しかない」という回答が目立ち、ラーメン店は多いものの、他の飲食店が少なく選択肢が少ないことを不満の理由にあげる回答が最も多かった。カフェやファミリーレストラン、子ども連れで気軽に入れる店の少なさについての記述もあった。

営業時間に関するものは、営業時間が短いという内容の回答が大多数を占め、夜間に外食する場所の少なさやラーメン店の営業終了時間が早いことなどの内容であった。

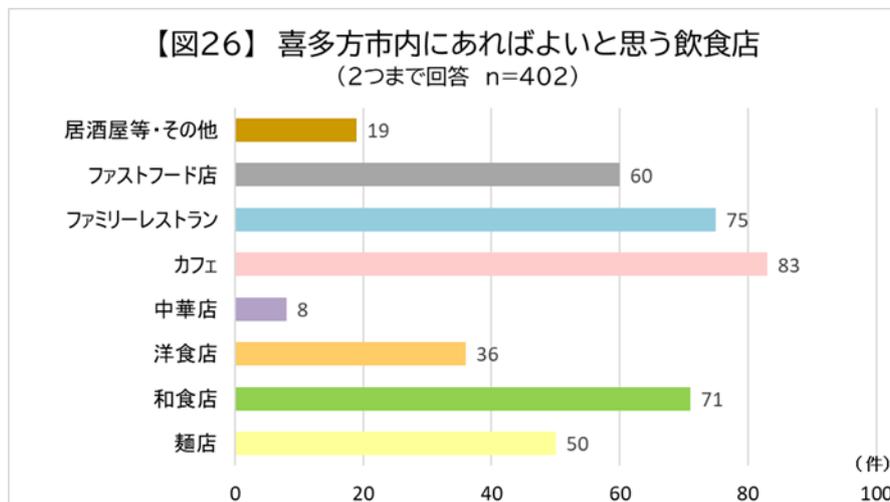
駐車場・交通手段に関するものでは、駐車場が狭いといった回答が多数であった。

(5) 喜多方市内にあればよいと思う飲食店

～カフェ、ファミリーレストランなどが多い～

若い世代・子育て世代が望んでいる飲食店を調査するため、喜多方市内にあればよいと思う飲食店についてたずねたところ（自由記述回答）、129人から回答（有効回答）があったが、その多くが具体的な店舗名を複数記入した回答で、チェーン店が圧倒的に多かった。これらを種類別に分類してみると「カフェ」、「ファミリーレストラン」、「ファストフード店」、「和食店」が多い。（図26）

また、具体的な店舗名ではなく「子ども連れでも入りやすいカフェやレストラン」、「キッズメニューがあるカフェ」といった回答も複数あり、子育て世代は子ども連れでも利用しやすい飲食店を望んでいる。このほか「地元食材を使用した気軽に入れるレストラン」という地場産品を意識した回答もあった。



Ⅲ まとめ

(1) 要旨

- 土日祝日は家族と買い物に出かけることが多く、買い物は休日や余暇を過ごす楽しみの一つとなっている。
- 市内店舗は多くの項目で満足度が高いが、品揃えの少なさに対する不満が多い。品揃えのよさから、会津若松市での購入とともにインターネットなどによる購入が多く、市外への消費流出の要因となっている。
- 夜間に買い物や飲食できるところが少ないことから、閉店時間が早いことへの不満が多い。人手不足による労働力確保の困難さに加え、光熱水費や人件費の高騰もあり、コロナ禍以降、営業時間が短縮傾向にあることが背景にあると思われる。
- 価格に対する不満は、依然として物価の高騰が続いていることによるもので、物価高騰が本市にも影響を及ぼしている。
- 市内飲食店も多くの項目で満足度が高いが、「飲食店の種類の少なさ」「営業時間が短い」「駐車場が狭い」を不満にあげている。
特に「飲食店の種類の少なさ」は、ラーメン店が多いが他の飲食店が少ないため選択肢が少ないという理由が多い。
観光振興に果たすラーメン店の役割は大きいが、若い世代・子育て世代はラーメン店が多いがゆえに他の飲食店の数や種類が少ないと捉えており、外食における不満要素になっている。
- 商業施設・テナント誘致の参考とするためのニーズ調査では、大手チェーンによる衣料品店や雑貨店、飲食店を求める回答が多く、特にカフェ、ファミリーレストランは多い。これらは一定の需要が見込まれる。
- 要望や不満のすべてに対応することは難しいが、市内での購買意欲を高めることにより市内消費の拡大を図るとともに、本市の特徴や特色、観光資源等を生かしながら外からの消費を拡大することにより、地域産業の振興、地域内経済循環、若い世代の地元定着につなげていくことが求められる。

(2) 本文

今回のアンケートは、回答率が19.3%と低かったものの、若い世代・子育て世代の消費に関する行動や不満、要望などを捉えることができた。

「買い物の頻度」や「買い物する時間帯」の回答からは、週2～1回、平日の仕事帰りの18時以降に食料品、日用品などの買い物をしているという回答が多く、平日の夕方の購買機会が多かった。

また、「買い物」は「外食」とともにレジャー化しており、公益財団法人日本生産性本部「レジャー白書^{*1}」によると、「外食」、「国内観光旅行」、「ドライブ」は、常に参加人口の上位にあるが、近年、大型のショッピングセンターが全国的に急増し、買い物のほか飲食店、映画館、ゲームセンターなども備えたところが多く、余暇を過ごす新たな空間になっているという。平成29年から「複合ショッピングセンター、アウトレットモール」としてレジャー白書の調査項目に新たに加わり、参加人口の上位に位置している。今回のアンケートでも土日祝日は家族とともに買い物に出かけるという回答が多く、また、ショッピングモールなど複合的な商業施設を望む回答も見られ、買い物は休日

や余暇を過ごす楽しみの一つとなっている。

喜多方市内の店舗は、多くの項目で満足度が高いが、不満は「品揃えが少ない」、「閉店時間が早い」、「価格が高い」といった理由として多かった。

品揃えについては、会津若松市での購入とともにインターネットなどによる購入が多く、経済産業省「令和5年度デジタル取引環境整備事業（電子商取引に関する市場調査）^{※2}」によると、令和5年の日本国内の消費者向け電子商取引（BtoC-E C）市場規模は24.8兆円（前年22.7兆円、前々年20.7兆円、前年比9.23%増）で年々増加しており、このうち物販系分野が14.7兆円となっている。本市においても若い世代ではインターネットを利用した商品の購入が多くあり、E Cの広がりが見て取れ、消費が流出している。

また、営業時間については、夜間に買い物や飲食できる場所が少ないことから、閉店時間が早いことへの不満が多くあったが、人手不足による労働力確保の困難さに加え、光熱水費や人件費の高騰もあり、コロナ禍以降、営業時間が短縮傾向にあることが背景にある。一方、わが国では長時間労働の削減が課題となっており、長時間労働の抑制や年次有給休暇の取得促進等の「働き方改革」についての取り組みが進められている。人口減少とともに消費の縮小が進む地域において、消費者の利便性、事業者の採算性、適正な労働力・労働時間のすべてを確保することは難しい課題である。

さらに、価格については、総務省「2020年基準の消費者物価指数 全国2025年(令和7年)7月分^{※3}」の「総合指数」は2020年を100として「111.9」で、前年同月比は3.1%の上昇、前月比(季節調整値)は0.1%の上昇と依然として物価の高騰が続いており、本市にも影響を及ぼしていることが回答に表れている。

喜多方市内の飲食店も多くの項目で満足度が高いが、「飲食店の種類の少なさ」、「営業時間が短い」、「駐車場の狭い」を不満の理由にあげる回答が多くあった。

「飲食店の種類の少なさ」ではラーメン店は多いものの他の飲食店が少ないため選択肢が少ないという理由であり、「営業時間の短さ」はラーメン店の多くは営業終了時間が早いこと、「駐車場の狭さ」もラーメン店に関するものが見られた。「喜多方ラーメン」は、本市の最も重要な観光資源であるが、市民も営業時間の短さ、駐車場の狭さを不満に感じていることから、営業時間の周知や改善、駐車場の確保は、さらなる消費の拡大と観光誘客のための課題の一つと言える。

観光振興に果たすラーメン店の役割は大きいものの、若い世代・子育て世代は、ラーメン店が多いがゆえに他の飲食店の数や種類が少ないと捉えており、外食における不満要素になっている。

喜多方市内の店舗の品揃え、飲食店の数・種類の少なさ、営業時間の短さなどの不満は、会津若松市など市外での購買・外食が多いことに現れており、人や資金の市外流出の要因の一つになっている。

若い世代・子育て世代は、大手チェーンによる衣料品店や雑貨店、飲食店を求めており、特にカフェ、ファミリーレストランの要望は多いことから、これらは一定の需要が見込まれる。また、映画館の要望も多く、会津地域にない施設の整備も他からの流入、賑わいの創出につながるものと思われる。

要望や不満のすべてに対応することは難しいが、市内での購買意欲を高めることにより市内消費の拡大を図るとともに、本市の特徴や特色、観光資源等を生かしながら外からの消費を拡大することにより、地域産業の振興、地域内経済循環、若い世代の地元定着につなげていくことが求められる。

< 参 考 >

※1 公益財団法人日本生産性本部「レジャー白書」

1977年に創刊され、全国15～79歳の約3,000人を対象とした余暇活動調査（レジャー白書調査）結果などをもとに、日本における余暇の実態を需給双方の視点から総合的・時系列的にとりまとめたもの。

短信第14号 https://www.jpc-net.jp/research/assets/pdf/leisure_brief_note_vol14.pdf

※2 経済産業省「令和5年度デジタル取引環境整備事業（電子商取引に関する市場調査）」

<https://www.meti.go.jp/press/2024/09/20240925001/20240925001.html>

※3 「2020年基準の消費者物価指数 全国2025年(令和7年)7月分」

<https://www.stat.go.jp/data/cpi/sokuhou/tsuki/pdf/zenkoku.pdf>